



第2回 デジタルライフライン全国総合整備実現会議における NTTからの意見

2023年9月15日
日本電信電話株式会社 代表取締役社長
島田 明

暮らしを変える通信インフラ・データ流通の具体化にむけて



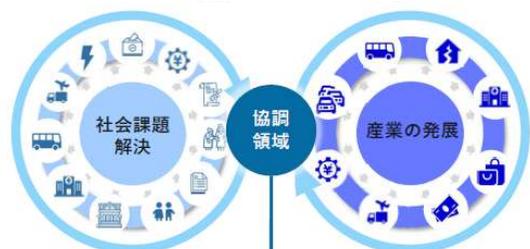
デジタルライフライン基盤整備にむけて

- NTTは、社会課題の解決や新たな価値創造に向けた、日本の産業発展と競争力向上につながるデジタルインフラ基盤の整備に貢献していく。
- 基盤整備にむけては、複数の企業や自治体・政府などの行政機関が連携して進めるべきであり、NTTとしては、他のインフラ事業者等と連携した考え方の整理や各種課題解決に積極的に取り組む。

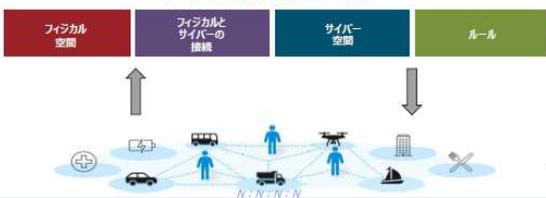
デジタルライフラインの整備後（To-Be）

目指すべき社会
(Society 5.0)

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させた
デジタルによる社会課題解決・産業発展を実現する社会



デジタルライフライン



1 協調領域を中心としたデータの利活用

協調領域におけるデータの利活用を通じて、業界を横断して環境の変化に迅速に対応。競争領域の創出、ネットワーク効果の実現により、社会課題の解決、産業の発展を実現。

2 オペレーションの自動化

デジタルライフラインを通じて連携されたデータを用いることで、リアルタイム・予測された情報を活用し、オペレーションの迅速化・自動化が可能に。

3 安全・早い・安いサービスの提供

デジタルライフラインを通じて提供されるサービスは、安い（サービス提供の省人化・無人化等）、早い（リードタイムの短縮等）、安全（運行・運航環境の整備等）、といった観点で付加価値・費用対効果が向上し、規模の経済によるコスト低減やプラットフォーム自体の魅力向上に繋がる等の好循環を生み出す。

NTTの取り組み

- ・各インフラ事業者と連携したインフラ管理DXシステムの整備
- ・自動運転・ドローン航行にむけて「**4次元時空間データ連携基盤**」に活用可能な4Dデジタル基盤®技術の研究とアーリーハーベストPJと連動した開発や課題の洗い出し
- ・情報処理基盤や通信ネットワークを高度に運用していくためのゼロタッチオペレーション等、**オペレーション技術の研究開発**
- ・オール光ネットワークを省電力で実現するための**通信デバイスや光通信装置等の技術・研究開発**
- ・NTN（非地上ネットワーク）の実現にむけてGEO/LEO/HAPSを用いたカバレッジ拡張の研究開発

第一回アーキテクチャWG資料より引用

インフラ管理DX-WGの検討状況 ～協調領域，課題～



- インフラ管理DXシステムにおいて，電力・ガス・通信・上下水道等，社会インフラの設備情報から，空間IDや画像等を協調領域として収集し，統合管理する。
- インフラ管理DXシステムの情報を利用する事業者や自治体が活用することで，平時における業務の共通化・自動化やリソースの最適活用が促進されるとともに，災害時における応急復旧・早期回復を実現する。

